『世界の日本語教育』4，1994年6月

「魚は鯛がいい」構文の分析

陳　訪　澤*

キーワード：「魚は鯛がいい」構文，総記性，集合体と個別体

要　旨

「X は Y が Z」構文の一種である「魚は鯛がいい」というタイプの分析について，「X は」を文の要素の主題化とみる考え方と，深層構造における存在とみる考え方というまったく違った2つの立場がある．後者の立場は「魚は鯛がいい」という文を前者の立場に対する反例としてみてきた．本稿は前者の立場に立って，このタイプの構造を考察し，新しい分析法を提案する．「魚は鯛がいい」というタイプ(本稿ではDタイプという)にはD①タイプ(「魚は鯛がいい」)とD②タイプ(「人工衛星を打ち上げたのはソ連が最初だ」)の2タイプがある．このタイプの特徴として，(1)「X」と「Y」は同じ種類の集合体と個別体の関係になっている，(2)「Y が Z」の中の格助詞「が」は総記性を表わしている，という点が挙げられる．D①タイプは「X」の部分が名詞で，主題化以前の構造に還元すると，「X ノ Y ガ Z」，「Y ノ X ガ Z」または「Y ガ Z ノ X (ダ)」のいずれかに還元できる．D②タイプは「X」の部分が「連体修飾成分＋の」で，主題化以前の構造は「Y+Z+X」と分析できる．D①タイプとD②タイプは主題化以前の構造は違うが表層文の構造は同じであるため，両タイプは融合することがある．

1. はじめに

1-1. 本稿のテーマ

「象は鼻が長い」に代表される「X は Y が Z」構文は，三上(1960)以来，多くの学者によって盛んに研究されてきた．しかし，この構文の一種である「魚は鯛がいい」というタイプについて，今までの研究は大きく2つの立場に分けられる．1つはこれを文の要素の主題化によって派生された主題文とみる立場で，主題化以前の構造を「X ノ Y ガ Z」や「Y ノ X ガ Z」と考えている．もう1つは主題の「X は」を深層構造から存在するものとみる立場で，「魚は鯛がいい」を「*鯛の魚ガイイ」から導くことができないとして，これを前者の立場の反例とみている[1]．

* CHEN Fangze：広州対外貿易大学外国語学部日本語講師．

[1] たとえば，Nakau (1973) では「魚は鯛がいい」という文を「魚の鯛がいい」からの派生とみているが，野田 (1988) ではこのタイプの文を「Y ノ X ガ Z」からの派生とみている．一方，久野 (1973) と柴谷 (1978) では「魚は鯛がいい」をはじめ，すべての有題文の主題を深層構造に存在するものと考えている．

本稿の目的は，この「魚は鯛がいい」というタイプについて，文の構造からさらに下位分類を行い，それぞれの構造と成立の仕組みを明らかにするとともに，違った構造のものに違った分析法の適用を提案することにある．

1-2. 研究の立場

上にも触れたように，主題を深層構造に存在するものとみる立場を取る学者もいるが，係助詞「は」は文の要素を取り立てるはたらきをして，要素間の格関係を表わさないというのはほぼ定説になっているため，主題構文を扱う際，主題は文の要素が主題化操作を経て派生されたものとみる立場が一般的である．本稿もこの立場に立って検討を進めたい．

主題を深層構造に認めるという立場では，いろいろと新しい問題を引き起こすおそれがある．たとえば，深層構造に主題を認めるとすれば，文において係助詞が格助詞に先立って配置されるということになる．したがって，「X には」「X では」「X とは」などといった表層文の成分は，一般に認められている「X に」「X で」「X と」などの格成分に係助詞の「は」がついて派生されたものではなく，「X は」という深層構造の主題に格助詞の「に」「で」「と」などが割り込んで派生されたものであるということになる．助詞の配置問題以外に文の構造の問題もある．本稿の扱う範囲ではないため，ここでくわしく述べることは省略するが，結論をいうと，主題を深層構造に認めるとすれば，同じ意味構造をもつ違った主題文どうしの関連を明らかにすることができなくなり，最終的には主題と他の成分との論理関係を明らかにすることもできなくなる．つまり，この立場は文の構造を解明するのに有益なものとは考えられない．

1-3. 「X は Y が Z」構文の分類

本論に入る前に，「X は Y が Z」構文の全体像の概観として筆者の分類を簡単に紹介しておく．この構文の分類には，いままで森田(1980)，野田(1982)，陳(1985)，菊地(1988)などがあるが，ここで紹介するのは，陳(1985)に基づいて整理しなおしたものである．この分類は，主題である「X は」の部分が，「Y が」と「Z」の部分とどのような論理関係にあるかをもとに行ったものである．

A タイプ： 文の格成分の主題化によるものである．

1-01 日本人は野球が好きだ．(← 日本人ガ野球ガ好キダ)

1-02 この本は父が買ってくれました．(← コノ本ヲ父ガ買ッテクレタ)

1-03 北海道は雪が降っている．(← 北海道デ雪ガ降ッテイル)

B タイプ： 従属節の中の格成分の主題化によるものである．

1-04 遠い山は西日を受けると，峰から紅葉して来ているのがはっきり分かった．
(← 遠イ山ガ西日ヲ受ケルト，峰カラ紅葉シテ来テイルノガハッキリ分カッタ)

1-05 薬は碧郎に意外なほど，塗ったあとが楽だったらしい．（←碧郎ニ意外ナホド，薬ヲ塗ッタアトガ楽ダッタ）[2]

C タイプ： 連体修飾成分「X ノ」の主題化によるものである．

1-06 象は鼻が長い．（←象ノ鼻ガ長イ）

1-07 カキ料理は広島が本場だ．（←広島ガカキ料理ノ本場ダ）

1-08 尚更島村はその行男という男が心に残っていた．（←尚更ソノ行男トイウ男ガ島村ノ心ニ残ッテイタ）

D タイプ： 本稿のテーマである．

1-09 鼻は象が長い．（←象ノ鼻ガ長イ）

1-10 辞書は新しいのがいい．（←辞書ノ新シイノガイイ，新シイ辞書ガイイ）

1-11 魚は鯛がいい．（←*鯛ノ魚ガイイ）

1-12 人工衛星を打ち上げたのはソ連が最初だ．

1-13 彼女がこの室で眼を醒ますのはこれが初めてであった．

このタイプは従来，「X ノ Y ガ Z」や「Y ノ X ガ Z」の中の「X」の主題化と考えられてきた．しかし，この分析では 1-11 のような文のほかに，1-12 と 1-13 のような文についても説明できないようである．したがって，本稿は次節以下，このタイプをテーマとして検討する．

E タイプ：「連体修飾成分＋名詞」の中の「名詞」の主題化によるものである．

1-14 このにおいはガスが漏れているに違いない．（←ガスガ漏レテイルコノニオイ）

1-15 三味線は耳がうるさくなるばっかり．（←耳ガウルサクナルバッカリ[ノ]三味線）

1-16 死因は首筋に突き刺さっていた吹き矢の先に毒が仕込まれてあったらしい．（←首筋ニ突キ刺サッテイタ吹キ矢ノ先ニ毒ガ仕込マレテアッタ死因）

F タイプ：「Y が Z」の部分に慣用表現が含まれているものである．

F ① タイプ：「Y が Z」そのものが慣用表現である．

1-17 この子は世話が焼ける．

1-18 今日は都合が悪い．

F ② タイプ：「Y が Z」の一部が慣用表現である．

1-19 わたしは明日早く来ることができる．

1-20 このラジオはなおしようがない．

G タイプ：「Y が」の部分に指示語が現われるものである．

1-21 宮地老人や義兄の物腰にある何か鷹揚なものは，それがただ彼らが金があるためにすぎないと，彼は思う．

---

[2] 片仮名表記の部分はつまり本稿のいう主題化以前の構造と考えられるもので，原則として「らしい」のような表層構文の陳述にかかわる要素はこの中で表記しない．2 節以下の b の文も同じである．

1-22 薄く雪をつけた杉林は，その杉の一つ一つがくっきりと目立って鋭く天を指しながら地の雪に立った．

1-23 日本の現代文学は，それが始まってから，その伝統ができたと言えるほどの時間もたっていない．

D タイプ以外は今回扱わない．

2. 「魚は鯛がいい」構文の分類

この節から D タイプについて検討していくが，まずこのタイプ全体の特徴として次の点が挙げられる．

（1）「X」と「Y」は同じ種類の集合体と個別体の関係になっている．

（2）「Y が Z」の中の格助詞「が」は総記性を表わしている[3]．

これは D タイプを他のタイプと区別する重要なポイントにもなっている．このタイプは「X」の部分にくる要素によって，2種類に分けることができる．

2-1. D ① タイプ

D ① タイプは「X」の部分に名詞がくる．

2-01 鼻は象が長い．(1-09 参照)

2-02 辞書は新しいのがいい．(1-10 参照)

2-03 魚は鯛がいい．(1-11 参照)

三上(1960)では，同じ D ① タイプと考えられる 2-04，2-05 と 2-06 の a の文に対してそれぞれ b のように分析している．

2-04a 笛は横笛いみじうをかし．

b 笛(類概念)ノ横笛(種概念)ガタイヘンオモシロクアル koto [p. 53]

2-05a 鼻は象が長い．

b 象ノ鼻ガ長クアル koto [p. 68]

2-06a 案内状は，夫婦あてにするのが本式だろう．

b 夫婦アテニスルノガ本式ノ案内状デアル koto [p. 69]

これらの分析を次のように表わすことができるだろう．

---

[3]「総記性 (exhaustive listing)」は久野 (1973) の用語で，「が」にこの用法があるということは Kuroda (1965) の指摘によるものである．Kubo (1992) では「が」の総記性の原因を助詞の統語上の位置と用言の形状性に由来するものとみて，総記性の「が」は必ず文頭に現われ，文中に現われることはないと結論しているが，このタイプは明らかにこの結論の反例になる．ただし，Kubo (1992) はこの構文について触れていない．

分析 I 「X は Y が Z」←「X ノ Y ガ Z」

分析 II 「X は Y が Z」←「Y ノ X ガ Z」

分析 III 「X は Y が Z」←「Y ガ Z ノ X (ダ)」

つまり，2-04 の分析は分析 I，2-05 の分析は分析 II，2-06 の分析は分析 III ということである．しかし，三上氏はこの 3 つの分析法の使い分けについて触れていないし，その後の学者たちも分析 I か分析 II にだけ注目して分析 III は無視してきたのが，問題の起こる所以である．

D ① タイプの文はこの 3 つで分析することができるので，2-01，2-02，2-03 の文をこれらの分析で主題化以前の構造に復元すると，次のようなものが考えられる．

2-01′ 象ノ鼻ガ長イ

2-02′ 辞書ノ新シイノガイイ

2-03′ 鯛ガイイ魚ダ

3 節でこのタイプについて詳しく検討する．

2-2. D ② タイプ

D ② タイプは「X」の部分に「連体修飾成分＋の」という「の」による名詞句(以下，略して「名詞句」と呼ぶ)がくる．このタイプの文は，本稿が初めて考察の対象として取りあげるものである．

2-07 人工衛星を打ち上げたのはソ連が最初だ．(1-12 参照)

2-08 彼女がこの室で眼を醒ますのはこれが初めてであった．(1-13 参照)

このタイプは D ① タイプと構造が違うため，上記の 3 つの分析で分析することができない．それを主題化以前の構造に復元すると，次のようなものが考えられるだろう．

2-07′ ソ連ガ最初ニ人工衛星ヲ打チ上ゲタ

2-08′ 今度(＝これ)初メテ彼女ガコノ室デ眼ヲ醒マシタ[4]

D ② タイプは D ① タイプと違った構造から派生されたものと考えられる．4 節でこのタイプについて詳しく検討する．

3. D ① タイプの構造と分析

3-1. D ① タイプの各部分の構成と文型

D ① タイプの文において，「X」の部分はすべて名詞で，「Y」と「Z」の部分は名詞のほかに，

[4] 2-08 の中の代名詞「これ」は表層構文での代用表現と考えられるので，主題化以前の構造に復元する場合，その本来の表現に戻さなければならない．「これ」の本来の表現と考えられるものとして，「今度」「今回」「コノ日」などが挙げられよう．

用言または用言に付属語などがついたもの(以下単に「用言」という)がくることもできる.「Y」と「Z」の部分に名詞がくる時，その名詞と「X」の部分の名詞との関係は同じ種類の個別体と集合体の関係でなければならない.「Y」の部分に用言がくる場合,「用言連体形＋の」の形を取って，名詞句になるのが条件である. 石垣(1942)の分類によると，用言は動作・作用を表わす「作用性用言」と状態を表わす「形状性用言」に分けられ，したがって，名詞句も「作用性名詞句」と「形状性名詞句」に分けることができる. 本稿も石垣のこの分類に従う.

D ① タイプは各部分にくる要素の組み合わせによって，構成上次の8種の文型に分けられる. 理論的には9種の文型ができるが，石垣(1942)の法則によれば,「Y」と「Z」の部分に同時に「作用性名詞句」と「作用性用言」がくることはできないため，成立可能な文型は8種だけとなる[5].

	X		Y		Z
I 型	名詞	＋	名詞	＋	名詞
II 型	名詞	＋	名詞	＋	形状
III 型	名詞	＋	名詞	＋	作用
IV 型	名詞	＋	形状	＋	名詞
V 型	名詞	＋	形状	＋	形状
VI 型	名詞	＋	形状	＋	作用
VII 型	名詞	＋	作用	＋	名詞
VIII 型	名詞	＋	作用	＋	形状

次は各文型について用例を挙げておくが，用例のない文型は可能なだけ作例してみる.

I 型：「名詞＋名詞＋名詞」

3-01 保険診療収入などから看護婦の給与や医薬品代金などの支出を除いた医業収支差額(医業関連の営業利益)は，医療法人経営の病院が平均二百九十五万八千円で前回比51.8% の減益，個人経営も平均四百四十六万一千円で同 14.6% の減益だった. (1992.8.5 読売日 1)

3-02 奈良国立文化財研究所がこれまでに中国と国産鏡計約三百面を対象に行った分析値によると，中国鏡のスズの含有率は平均 22.4%，国産鏡は 12.2%，鉛は中国鏡が4%，国産鏡が 8.1% で，両者に明らかな差があり，椿井大塚古墳の鏡のデータは，中国鏡に一致することがわかった. (1992.10.4 読売日 30)

3-03 市中金融業者が融資先から預かる担保は，不動産と宝石が大部分のようである. (目，p. 47)

3-04 年配は露口の方がやや上のようだ. (目，p. 56)

[5] 表の中の「形状」と「作用」は,「Y」の部分では「形状性名詞句」と「作用性名詞句」のことを,「Z」の部分では「形状性用言」と「作用性用言」のことをそれぞれ表わす.

I 型の文の特徴について，野田(1988)では，1)「Z」の部分が数を表わす名詞であること，2)「Y」の部分が「X」の部分の修飾語になれる名詞であること，3)「Y が Z」の部分が2つ以上現われる対比構造であること，などを挙げている．上記の用例をみると，3-01と3-02はこれにあてはまるが，3-03と3-04はそうではない．その原因は「Y が Z」に求めなければならない．2節で述べたように，「Y が Z」の中の格助詞「が」は総記性を表わしている．実は，この部分の「が」が総記性を表わすということは「魚は鯛がいい」というタイプの成立の条件なのである．3-01と3-02のように，「Z」の部分が数量名詞の「平均二百九十五万八千円」や「8.1%」などである場合，「Y が Z」の部分が1つだけでは総記性の「が」と認められないので，2つめを必要としたわけである．3-03と3-04の場合は，「Y が Z」が1つだけでも「が」は十分総記性を表わしているので，2つめの「Y が Z」を必要としない．

II 型：「名詞＋名詞＋形状」

3-05　山は富士山がきれいだ．(陳 1985)

3-06　比重は存続会社となるほくさんの方が重い．(1992.9.2 読売日 6)

3-07　コースは中国に入ってからが難しい．(1992.8.24 読売日 16)

3-08　体重は雨地の方が一キロ少なかったのだ．(ひとり，p. 26)

野田(1988)では，II 型の文の「Z」の部分に「いい」「多い」というような意味，つまりプラス意味を表わす形容詞がよく使われ，その反対のマイナス意味のものは使われにくいとみている．しかし，このタイプの文は「が」の総記性が成立の条件なので，この条件にさえかなえば，単語の意味がプラスかマイナスかに関係なく，どちらも使えるのである，と筆者は考える．形容詞，形容動詞は総記性をもたらすプラス意味とマイナス意味のペアをもつものが多いため，この文型はよく使われている文型の1つである．プラス意味とマイナス意味のペアをもたない形容詞，形容動詞はこの文型に使われにくい．

III 型：「名詞＋名詞＋作用」

3-09　陸上(～空中)という新しい環境を得た生物は，植物の先導で昆虫・クモ類がすぐこれを追い，たちまち種々の条件に適応し，多様性を著しく高めることになった．(宇，p. 91)

3-10　使い捨てロケットはアメリカのスカウト，デルタ，アトラス，タイタン型，ソ連のソユーズ，プロトン，中国の長征型などが軍用として発展してきたが，これと並行して人工衛星や惑星探査機の技術開発とあいまって，平和利用面としての宇宙ロケットへと改良が続けられ，(宇，p. 113)

3-11　霊柩車は，葬儀社のものが多くくるのですか．(目，p. 355)

III 型の文において，「Z」の部分には動詞がくる．動詞型述語の文も名詞型述語と形容

詞，形容動詞型述語の文と同じように，「Y が Z」の「が」が総記性を表わさなければならない．1つの「Y が Z」で総記性の「が」と認められる場合は1つしか必要としないが，そうでない場合は2つめが必要になる．上記の 3-09 と 3-11 は「Y が Z」の中の「が」が総記性を表わしているため1つだけですむが，3-10 はそうはいかない．3-10 は，「Y が Z」の部分が1つだけでは総記性の「が」と認められないため，2つを必要としている．ただし，3-10 の2つの「Y が Z」はタイプが違っている．タイプが違っていても総記性の「が」であれば，文の成立に十分である．

なお，この型の文は「Z」の部分にくる動詞によって，「Y」の部分の名詞が「が」以外の格助詞にマークされることがある．

3-12 車はグリーンのアルファロメオに乗っている．(闇，p. 110)

3-13 外国語は日本語を習っています．(陳 1986)

IV 型：「名詞＋形状＋名詞」

3-14 車は赤いのが日本製だ．(作例)

V 型：「名詞＋形状＋形状」

3-15 タイは明石沖で取れるのが最上だ．(三上 1960：72)

3-16 マリモは不定形のものが多い．(1992. 10. 4 北海道日 30)

VI 型：「名詞＋形状＋作用」

VI 型の文は III 型と同じように，「Z」の部分に動詞がくる．「Y」の部分には状態を表わすものなら動詞も現われることができる．

3-17 歩行機もいろいろなものが考えられています．(陳 1985)

3-18 枝豆はゆでたのが出ました．(三上 1960：75)

なお，III 型と同じように，「Z」の部分にくる動詞によって，この型の文の「Y」の部分は「が」以外の格助詞にもマークされるのである．

3-19 色のある縮は糸につくったのを拐にかけてさらす．(陳 1986)

3-20 家は教師のほうが車屋より大きいのに住んでいるように思われる．(陳 1986)

VII 型：「名詞＋作用＋名詞」

3-21 案内状は夫婦あてにするのが本式だろう．(三上 1960：69)

VIII 型：「名詞＋作用＋形状」

この文型の用例はないが，作例も難しいようである．

集めた用例をみると，次のような現象のあることが分かった．「Y」と「Z」の両方とも名詞である文型(I 型)はよく使われているものであるが，どちらか一方が名詞で他の一方が名詞句(用言)である場合(つまり II 型，III 型，IV 型，VII 型の場合)，「Y」が名詞の文型 (II 型，III 型)は割によく使われていて，「Z」が名詞の文型(IV 型，VII 型)はあまり使われていない．そ

して「Y」が名詞句で「Z」が用言である場合(つまり V 型, VI 型, VIII 型の場合),「Y」が形状性名詞句の文型(V 型, VI 型)は割によく使われていて,「Z」が形状性名詞句の文型(VIII 型)はあまり使われていない[6]. 換言すれば,「Y」の部分には名詞がもっとも現われやすく,形状性名詞句がそのつぎで,作用性名詞句がもっとも現われにくい. 逆に「Z」の部分には作用性用言がもっとも現われやすく,形状性用言がそのつぎで,名詞がもっとも現われにくい.

3-2. D ① タイプの分析

このタイプの文の分析を行う時, 2節で触れた3つの分析法をどのように使い分けるかについて,それぞれの適用範囲をみてみよう.

まず,適用に関係する「Y」と「Z」の部分の名詞の分類を考えておく. D ① タイプの「Y」と「Z」の部分に名詞がくる場合,その名詞は「X」の部分の名詞との意味の関係から大きく分けると,2種類ある. 1つは「X」の部分の名詞を性質や種類などの面から修飾・限定するもので,つまり「Y ノ X」あるいは「Z ノ X」という関係をもっている. たとえば,

3-22 鼻は象が長い. (1-09 参照)

3-23 車は赤いのが日本製だ. (3-14 参照)

において,「象ノ鼻」「日本製ノ車」という関係がそれである.「X」とこのような関係にある「Y」あるいは「Z」の部分の名詞を (A) 型と呼ぶ. もう1つは,「X」の部分の名詞と同じ種類の個別体と集合体の関係をもっているもので,つまり「Y」か「Z」が「X」に含まれるような関係(「Y∈X」「Z∈X」)になっている. たとえば,

3-24 魚は鯛がいい. (1-11 参照)

3-25 山は富士山がきれいだ. (3-05 参照)

において,「鯛∈魚」「富士山∈山」という関係がそれである.「X」とこのような関係にある「Y」あるいは「Z」の部分の名詞を (B) 型と呼ぶ.

この2種類の名詞を関連の文型(I 型, II 型, III 型, IV 型, VII 型)に入れて考えると,次のような下位文型ができる.

I (AA) 型:「名詞+名詞 (A)+名詞 (A)」
(AB) 型:「名詞+名詞 (A)+名詞 (B)」
(BA) 型:「名詞+名詞 (B)+名詞 (A)」
II (A) 型:「名詞+名詞 (A)+形状」
(B) 型:「名詞+名詞 (B)+形状」

[6] 作例を除けば,筆者が集めた32の D ① タイプの用例の内訳は,次のようになっている.
I 型: 4例, II 型: 12例, III 型: 7例, IV 型: 0例,
V 型: 4例, VI 型: 4例, VII 型: 1例, VIII 型: 0例.

III (A) 型：「名詞＋名詞 (A)＋作用」

(B) 型：「名詞＋名詞 (B)＋作用」

IV (A) 型：「名詞＋形状＋名詞 (A)」

(B) 型：「名詞＋形状＋名詞 (B)」

VII (A) 型：「名詞＋作用＋名詞 (A)」

(B) 型：「名詞＋作用＋名詞 (B)」

分析 I：「X は Y が Z」←「X ノ Y ガ Z」

分析 I の適用範囲　D ① タイプで，「Y」の部分が名詞句である文については分析 I を適用することができる．

「Y」の部分が名詞句で成立可能な文型は，IV 型以下の 5 種である[7]．

IV 型：

3-26a　車は赤いのが日本製だ．(3-14 参照)

b　車ノ赤イノガ日本製ダ

V 型：

3-27a　タイは明石沖で取れるのが最上だ．(3-15 参照)

b　タイノ明石沖デ取レルノガ最上ダ

3-28a　マリモは不定形のものが多い．(3-16 参照)

b　マリモノ不定形ノモノガ多イ

VI 型：

3-29a　歩行機もいろいろなものが考えられています．(3-17 参照)

b　歩行機ノイロイロナモノガ考エラレテイル

3-30a　色のある縮は糸につくったのを拐にかけてさらす．(3-19 参照)

b　色ノアル縮ノ糸ニツクッタノヲ拐ニカケテサラス

VII 型：

3-31a　案内状は夫婦あてにするのが本式だろう．(3-21 参照)

b　案内状ノ夫婦アテニスルノガ本式ダ

VIII 型の用例はない．

分析 II：「X は Y が Z」←「Y ノ X ガ Z」

分析 II の適用範囲　D ① タイプで，「Y」の部分が名詞句である文の全部と，「Y」の部分が (A) 型名詞である文については分析 II を適用することができる．

[7] 菊地 (1990) でも注 13 において，本稿の V 型となる「辞書は新しいのがいい」の文を「辞書の新しいのがいい」の主題化とみる可能性について触れている．

つまり，I (AA) 型，I (AB) 型，II (A) 型，III (A) 型と IV 型以下の文型が分析 II の対象となる．

I (AA) 型：

3-32a　鉛は中国鏡が 4%，国産鏡が 8.1% である．(3-02 参照)

b　中国鏡ノ鉛ガ 4%，国産鏡ノ鉛ガ 8.1% デアル

II (A) 型：

3-33a　コースは中国に入ってからが難しい．(3-07 参照)

b　中国ニ入ッテカラノコースガ難シイ

III (A) 型：

3-34a　霊柩車は葬儀社のものが多くくるのですか．(3-11 参照)

b　葬儀社ノ霊柩車ガ多ククル

IV 型：

3-35a　車は赤いのが日本製だ．(3-14 参照)

b　赤イ車ガ日本製ダ

V 型：

3-36a　タイは明石沖で取れるのが最上だ．(3-15 参照)

b　明石沖デ取レルタイガ最上ダ

VI 型：

3-37a　歩行機もいろいろなものが考えられています．(3-17 参照)

b　イロイロナ歩行機ガ考エラレテイル

3-38a　辞書はなるべく新しいのを買いたまえ．(三上 1960：74)

b　ナルベク新シイ辞書ヲ買ウ

VII 型：

3-39a　案内状は夫婦あてにするのが本式だろう．(3-21 参照)

b　夫婦アテニスル案内状ガ本式ダ

I (AB) 型と VIII 型の用例はない．

分析 III：「X は Y が Z」←「Y ガ Z ノ X (ダ)」

<u>分析 III の適用範囲</u>　D ① タイプで，「Z」の部分が用言である文の全部と，「Z」の部分が (A) 型名詞である文については分析 III を適用することができる．

つまり，I (AA) 型，I (BA) 型，II 型，III 型，IV (A) 型，V 型，VI 型，VII (A) 型と VIII 型などの文型が分析 III の対象となる．

I (AA) 型：

3-40a 鉛は中国鏡が 4%，国産鏡が 8.1% である．(3-02 参照)

b 中国鏡ガ 4% ノ鉛デ，国産鏡ガ 8.1% ノ鉛デアル

II 型：

3-41a 魚は鯛がいい．(1-11 参照)

b 鯛ガイイ魚ダ

3-42a コースは中国に入ってからが難しい．(3-07 参照)

b 中国ニ入ッテカラガ難シイコースダ

III 型：

3-43a 使い捨てロケットはアメリカのスカウトが軍用として発展してきた．(3-10 参照)

b アメリカノスカウトガ軍用トシテ発展シテキタ使イ捨テロケットダ

3-44a 外国語は日本語を習っている．(3-13 参照)

b 日本語ガ習ッテイル外国語ダ[8]

IV (A) 型：

3-45a 車は赤いのが日本製だ．(3-14 参照)

b 赤イノガ日本製ノ車ダ

V 型：

3-46a タイは明石沖で取れるのが最上だ．(3-15 参照)

b 明石沖デ取レルノガ最上ノタイダ

VI 型：

3-47a 歩行機もいろいろなものが考えられています．(3-17 参照)

b? イロイロナモノ(＝歩行機)ガ考エラレテイル歩行機ダ

VII (A) 型：

3-48a 案内状は夫婦あてにするのが本式だろう．(3-21 参照)

b 夫婦アテニスルノガ本式ノ案内状ダ

I (BA) 型と VIII 型の用例はない．

3-47 のような VI 型の文に分析 III を適用すると，やや不自然な感じがするが，非文ではない．これは用言性の高い作用性用言が修飾語より述語になる傾向が強いからであろう．分析 I と分析 II で VI 型の文を分析すれば，このような問題は起こらない．

以上の考察で分かるように，D ① タイプのすべての文型はこの 3 つの分析法のどれかで分析することができる．文型によっては，1 つの分析しか受けない文型もあれば，3 つの分析とも受

[8] 表層構文において「Y」の部分が「Z」にくる動詞によって「が」以外の格助詞にマークされても，分析 III を適用して主題化以前の構造に復元すると本来はガ格であることが分かる．

ける文型もある．本稿の表題の文は分析 III しか受けない．つまり「魚は鯛がいい」の主題化以前の構造は「鯛ガイイ魚ダ」と分析できる．

4. D ② タイプの構造と分析

4-1. D ② タイプの文の意味

D ② タイプの用例からみてみよう．このタイプの用例として，次のようなものがある．

4-01 人工衛星を打ち上げたのはソ連が最初だ．(陳 1985)

4-02 女性一人の単独無寄港で世界を一周したのは今給黎教子が初めてです．(1992.7.15 NHK)

4-03 国を被告とした訴訟で違憲性が明確に指摘されたのはこれが初めて．(1992.7.31 読売日 1)

4-04 金を借りたのは今度がはじめてですか．(目，p. 50)

4-05 駅から歩いて行くのは今日が初めてである．(面，p. 13)

4-06 見たのは今日が二度めです．(目，p. 406)

4-07 大法廷で論議されるのはこれが4回目である．(1992.9.17 NHK)

4-08 声をかけたのは，男のほうが先である．(美，p. 42)

例で分かるように，表層構造において，このタイプの文は D ① タイプと同じような特徴を示している．まず，「X」と「Y」は同じ種類の集合体と個別体の関係になっている．「X」はある動作を行う主体の集合，あるいは動作の発生する時間の集合を表わしていて，「Y」はこの動作主体の集合，あるいは動作発生時間の集合の一個別体を意味している．それから，「Y が Z」の中の格助詞「が」は総記性を表わしている．「Z」の部分にくるのは，ほとんど順序を表わす語(「初めて」「最初」「最後」など)なので，時間的に特定されるという意味で「が」に総記性をもたせている．よって，このタイプの文も「魚は鯛がいい」構文の一種と認められるのである．

4-2. D ② タイプの分析と文型

このタイプの各部分を構成する要素として，「X」の部分には名詞句がきて，「Y」の部分には名詞がくる．「Z」の部分にくるのは順序を表わす副詞(「初めて」)または名詞(「最初」「最後」「数量詞＋め」など)がもっとも多いということが筆者の調査で分かった．「Y」の部分にくる名詞は論理関係において，「X」の名詞句の中の格成分になっている．集めた用例によれば，格成分の種類はガ格と時ノ格の2種類で，時ノ格として出てくる名詞は「これ」[9]「今度」「今日」「今夜」「今

[9] 脚注4参照．

回」のようなコソアド系列のコ系列の意味をもつものがほとんどである.「Z」の部分は論理的に「X」の名詞句の中の連用修飾語になっている.

ここで述べたような論理関係に基づいて，上記の例を主題化以前の構造に復元すると，次のようなものになるだろう.

4-09a　人工衛星を打ち上げたのはソ連が最初だ. (4-01 参照)

b　ソ連ガ最初ニ人工衛星ヲ打チ上ゲタ

4-10a　女性一人の単独無寄港で世界を一周したのは今給黎教子が初めてです. (4-02 参照)

b　今給黎教子が初メテ女性一人ノ単独無寄港デ世界ヲ一周シタ

4-11a　国を被告とした訴訟で違憲性が明確に指摘されたのはこれが初めて. (4-03 参照)

b　今回(＝これ)初メテ国ヲ被告トシタ訴訟デ違憲性ガ指摘サレタ

4-12a　金を借りたのは今度がはじめてですか. (4-04 参照)

b　今度ハジメテ金ヲ借リタ

4-13a　駅から歩いて行くのは今日が初めてである. (4-05 参照)

b　今日初メテ駅カラ歩イテ行ク

4-14a　見たのは今日が二度めです. (4-06 参照)

b　今日二度メニ見タ

4-15a　大法廷で論議されるのはこれが4回目である. (4-07 参照)

b　今回(＝これ)4回目ニ大法廷デ論議サレル

4-16a　声をかけたのは男のほうが先である. (4-08 参照)

b　男ノホウガ先ニ声ヲカケタ

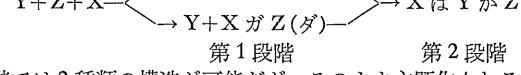
つまり，D ② タイプは次の構造からの派生であると考えられる.

「X は Y が Z」←「Y+Z+X」[10]

上記の例の「X」の部分に出てくるのはすべて作用性名詞句であるが，そのほかに形状性名詞句も出てこられる. 次は「X」の部分が形状性名詞句であると考えられる用例である.

---

[10] 主題化以前の構造から D ② タイプの表層構文を派生するには，理論的に2段階あると考えるのがよいと思われる.



第1段階　　第2段階

第1段階では2種類の構造が可能だが，そのまま主題化されると次のような文ができる.

(1)　銀河系外の天体の距離は最初にはかったのは，宇宙膨張で有名なハッブルと，星の運動を正確にはかる技術で一世を風靡していたファンマーネンでした. (宇, p. 23)

(2)　今回のように国会議員がかかわるのは初めてである. (1992. 9. 26 NHK)

主題化以前の構造から第1段階への派生はいわゆる疑似分裂文変形で，第1段階から第2段階の表層構文への派生はやや複雑なのでまだはっきりしない.

4-17 日本人が貧困というものに心をわずらわさなくてもよくなったのは，これがはじめてである．(模，p. 19)

4-18 どこにでもある白い長方形の封筒で，特徴がないのは便箋も同様だった．(目，p. 109)

これは D ② タイプにも多数の文型が存在していることを示している．D ② タイプの文において，「X」の部分には作用性名詞句あるいは形状性名詞句がきて，「Y」の部分にはすべて名詞がくる．「Z」の部分にこられる要素は副詞，名詞のほかに用言も考えられるが，これに対して次のような制約が課せられている．

(1) 副詞の場合は，「だ(である)」の付加によって述語の位置に立てるもの

(2) 名詞の場合は，そのままあるいは付属語の付加によって連用修飾語になれるもの[11]

(3) 用言の場合は，活用などによって連用修飾語になれるもの

(4) いずれの場合も「が」に総記性を持たせるもの

この制約で，「Z」の部分にこられる要素はほぼ決まっている．副詞は順序を表わす「初めて」で，名詞は順序を表わす「最初」「最後」「数量詞＋め」などである．普通の数量詞も考えられるが，「Y が Z」の「Z」に普通の数量詞がくると1つだけでは「が」に総記性をもたせないので，2つ以上が必要になる．用言は形状性用言の形容詞，形容動詞のくる場合が多く，プラス意味とマイナス意味のペアをもつものがもっとも現われやすい．

D ② タイプの各部分にくる要素をここで述べたことに基づいて組み合わせると，構成上6種の文型ができる．

	X		Y		Z
I 型	作用	＋	名詞	＋	副詞
II 型	作用	＋	名詞	＋	名詞
III 型	作用	＋	名詞	＋	用言
IV 型	形状	＋	名詞	＋	副詞
V 型	形状	＋	名詞	＋	名詞
VI 型	形状	＋	名詞	＋	用言

[11] 筆者が集めた用例の中に，実際，「Z」の部分は「X」の中の連用修飾語であると考えにくいものもある．たとえば次の (1) の「最後」は「X」の中の連用修飾語と考えられるが，(2) の「最後」は考えられない．

(1) a 今日学校へ来るのはわたしが最後だ．
　　b ワタシガ今日最後ニ学校へ来ル

(2) a わたしが学校へ来るのは今日が最後だ．
　　b* ワタシガ今日最後ニ学校へ来ル

つまり，主題化以前の構造において「Z」は理論的に連用修飾語以外の位置(たとえば，連体修飾語)に立つことも考えられる．(2) のような用例は今回非常に少ないので，さらに用例を収集したうえ，別の論文で扱う予定だが，いずれにしても表層構文が D ② タイプであることは確かである．

次に各文型の用例を参考として並べておくが，用例のない文型については可能なだけ作例してみる．

I 型：「作用＋名詞＋副詞」

4-19a 女性一人の単独無寄港で世界を一周したのは今給黎教子が初めてです．(4-02 参照)

b 今給黎教子が初メテ女性一人ノ単独無寄港デ世界ヲ一周シタ

4-20a 金を借りたのは今度がはじめてですか．(4-04 参照)

b 今度ハジメテ金ヲ借リタ

4-21a 駅から歩いて行くのは今日が初めてである．(4-05 参照)

b 今日初メテ駅カラ歩イテ行ク

II 型：「作用＋名詞＋名詞」

4-22a 人工衛星を打ち上げたのはソ連が最初だ．(4-01 参照)

b ソ連ガ最初ニ人工衛星ヲ打チ上ゲタ

4-23a 見たのは今日が二度めです．(4-06 参照)

b 今日二度メニ見タ

4-24a 声をかけたのは男のほうが先である．(4-08 参照)

b 男ノホウガ先ニ声ヲカケタ

III 型：「作用＋名詞＋用言」

4-25a 剝がすのはどちらが上手だろうな．(美，p. 276)

b ドチラガ上手ニ剝ガス

IV 型：「形状＋名詞＋副詞」

4-26a 日本人が貧困というものに心をわずらわさなくてもよくなったのは，これがはじめてである．(4-17 参照)

b 今（＝これ）ハジメテ日本人ガ貧困トイウモノニ心ヲワズラワサナクテモヨクナッタ

V 型：「形状＋名詞＋名詞」

4-27a ここにあるのは本が2冊と辞書が1冊です．(作例)

b 本ガ2冊ト辞書ガ1冊ココニアル

VI 型：「形状＋名詞＋用言」

4-28a 特徴がないのは便箋も同様だった．(4-18 参照)

b 便箋ニ同様ニ特徴ガナイ

4-3. D ② タイプと D ① タイプの融合

D ② タイプは「X」の部分の名詞句が名詞化されると，D ① タイプの文になることができる．たとえば，

4-29 サザンが海外で公演したのはこれが初めてだ．

4-30 入選したのは今回が初めてです．

この2つの文の「X」の部分を，「サザンが海外で公演したの」→「サザンの海外公演」，「入選したの」→「入選」と名詞化すれば，次のような D ① タイプの文になる．

4-31 サザンの海外公演はこれが初めてだ．(1992.8.28 読売夕 7)

4-32 入選は，今回が初めてです．(三上 1960：69)

ほとんどの名詞句が名詞化可能なので，D ② タイプはすべて D ① タイプに変えることができる．

また，名詞句の名詞化以外に，次のようなものもある．

4-33 道(＝北海道)が誘致に成功した宇宙関連の実験は今回が初めて．(1992.9.5 読売夕 13)

4-33の文を D ② タイプに戻すと4-34aになるだろう．4-34bは主題化以前の構造である．

4-34a 道が宇宙関連の実験の誘致に成功したのは今回が初めて．

b 今回初メテ道ガ宇宙関連ノ実験ノ誘致ニ成功シタ

つまり，D ② タイプの「X」の中の名詞(この例では「宇宙関連の実験」)が被修飾名詞となってできた D ① タイプの文である．

要するに，D ② タイプと D ① タイプは構造的に違っても表層構文が同じであるため，このような融合が許されるのだろう．

5. おわりに

以上述べてきたことを文の構造と成立からまとめてみれば，「魚は鯛がいい」構文について次のように結論することができるだろう．

(1) 「魚は鯛がいい」構文は主題化以前の構造から2種類(本稿では D ① タイプと D ② タイプ)に分けることができる．

(2) D ① タイプはすべて「X ノ Y ガ Z」，「Y ノ X ガ Z」，「Y ガ Z ノ X (ダ)」の3つの構造のいずれかに分析される．本稿の表題の「魚は鯛がいい」という文は「鯛ガイイ魚ダ」という構造からの派生であると考えられる．

(3) D ② タイプは「Y+Z+X」の構造に分析される．

（4） D ① タイプも D ② タイプも「X」と「Y」は同じ種類の集合体と個別体の関係になっている.

（5） D ① タイプも D ② タイプも「Y が Z」の中の格助詞「が」が総記性を表わさなければならない. 1つだけで「が」に総記性を持たせない場合は2つ以上の「Y が Z」を必要とする.

（6） D ② タイプは D ① タイプと同じ表層構文なので，名詞句の名詞化や，名詞句の中の名詞の被修飾名詞化などによって D ① タイプに変わることがある.

なお，D ② タイプの主題化以前の構造からどのように「X は Y が Z」という表層構文が派生されたのかについてはまだ不明なので，今後の課題としたい.

参 考 文 献

石垣謙二 (1942) 「作用性用言反撥の法則」,『助詞の歴史的研究』(1955), 岩波書店.

井上和子 (1976) 『変形文法と日本語』, 大修館書店.

菊地康人 (1988) 「従属節中の語句の主題化と分析できる『X は Y が Z』文について」,『東京大学言語学論集 '88』, 東京大学.

――― (1990) 「『X の Y が Z』に対応する『X は Y が Z』文の成立条件」,『文法と意味の間――国広哲弥教授還暦退官記念論文集』, くろしお出版.

久野 暲 (1973) 『日本文法研究』, 大修館書店.

近藤泰弘 (1988) 「中古語の分裂文について」,『日本女子大学文学部紀要』38号, 日本女子大学.

柴谷方良 (1978) 『日本語の分析』, 大修館書店.

陳 訪 澤 (1985) 「『～は～が～』型句子的意義及其分類」,『科技日語』総4号, 中国湖南大学.

――― (1986) 「主題在成分関係中的位置」,『科技日語』総8号, 中国湖南大学.

西山佑司 (1989) 「『象は鼻が長い』構文について」,『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』21号, 慶応義塾大学.

――― (1990) 「『カキ料理は広島が本場だ』構文について」,『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』22号, 慶応義塾大学.

野田尚史 (1982) 「『カキ料理は広島が本場だ』構文について」,『大阪大学待兼山論叢日本学篇』15号, 大阪大学.

――― (1988) 「『辞書は新しいのがいい』構文について」,『筑波大学文芸言語研究言語篇』13号, 筑波大学.

三上 章 (1960) 『象が鼻が長い』, くろしお出版.

――― (1970) 『文法小論集』, くろしお出版.

森田良行 (1980) 『基礎日本語』2, 角川書店.

Koya, Itsuki. 1992. *Subjecthood and related notions*. ICSELL, Birkhaeuser.

Kubo, Miori. 1992. *Japanese syntactic structures and their constructional meanings*. MIT Ph.D. Thesis.

Kuroda, S.-Y. 1965. *Generative grammatical studies in the Japanese languages*. (reprinted in New York, 1979) Garland.

Nakau, Minoru. 1973. *Sentential complementation in Japanese*. Kaitakusha.

用例出典

宇……集英社 (1992) 『宇宙・地球アトラス』, 集英社.
面……阿刀田高 (1991) 『面影橋』, 中公文庫.
ひとり……佐野　洋 (1986) 『ひとり，そしてそれだけ』, 角川書店.
美……吉行淳之介 (1975) 『美少女』, 新潮文庫.
北海道日……『北海道新聞』日刊 (1992. 10), 北海道新聞社.
目……夏樹静子 (1980) 『目撃』, 角川文庫.
模……タイムライフブックス編集部 (1983) 『模索する大国日本』, タイムライフブックス.
闇……勝目　梓 (1985) 『闇の亀裂』, 光文社文庫.
読売日……『読売新聞』日刊[北海道版] (1992. 7～10), 読売新聞北海道支社.
読売夕……『読売新聞』夕刊[北海道版] (1992. 8～9), 読売新聞北海道支社.
NHK ……NHK『モーニングワイド』(1992. 7～9), NHK テレビ放送局.